

「世界食料デー」月間 2023 チラシの解説（先生・ファシリテーター用）

●チラシのねらい：

- 世界の食料問題・飢餓と、日本にいる私たちの暮らしが繋がっていることを知る。
- 飢餓はさまざまな原因によって引き起こされていることを知る。

●解説：

※チラシを使って説明する際の順序は自由です。以下はあくまでも提案や参考資料です。

おもて面：



● 「世界食料デー」月間って？

チラシの右側上部にある説明を参照する。

詳しくは：<https://worldfoodday-japan.net/about/>

世界食料デー（10/16）は、1945年に国連食糧農業機関（FAO）が創設された日で、「世界の食料問題を考える日」として1981年に国連により定められた。

● 飢餓とは？

1日に必要なエネルギー量の食事を食べられず、活動的かつ健康的な生活を送れない状態を栄養不足といい、慢性的な栄養不足を飢餓という。

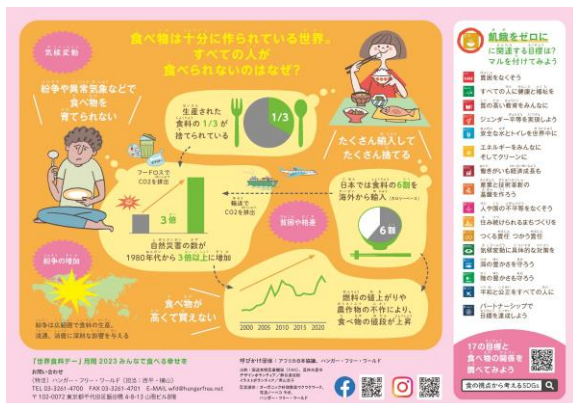
出典：<https://www.fao.org/japan/portal-sites/foodsecurity/en/>

● うら面につながる問いかけ

栄養不足人口（もしくは飢餓人口）に触れたあと、「世界に飢餓の人がいるのは、世界で作られる食べ物の量が、世界人口に対して不足しているからでしょうか？それとも、十分に作られていても、飢餓の人がいるのでしょうか？」と問いかける。

参照：<https://worldfoodday-japan.net/world/>

うら面：



● おもて面でした問いかけの回答と、さらなる問いかけと解説

おもて面での問いかけの回答として、上部の「食糧問題は十分に作られている世界～」の文章を確認※。さらに、「すべての人が食べられないのはなぜ？」と問いかけながら、オレンジ背景のインフォグラフィックスの右上から順番に、日本に暮らす私たちと世界の食料問題や飢餓問題のつながりを見ていく。

※参照：<https://worldfoodday-japan.net/world/>

● 私たちと世界の食料問題のつながり

海外から食べ物を輸入しているのにも関わらず、その3分の1も捨てているということは、多くの資源を無駄にすること。輸入した食べ物には、水、土地、肥料、燃料、労働力などの有限な資源が使われている。また、生産・加工・輸送、そして廃棄のために大量の温室効果ガスが排出される。この温室効果ガスによる異常気象は干ばつや洪水を引き起こし、特に雨水に頼る途上国の小規模農家に大きな影響を与える。これは、農業をしても十分な収穫が得られずに飢餓に陥る原因にもなっている。

参照：<https://worldfoodday-japan.net/world/> (特に「フードロス、何が問題？」から下の項目)

● 世界の飢餓の主要原因は？

2020年以降、長期間、栄養不足（飢餓）にある人は急増した。その原因と言われているのは、紛争、異常気象、経済の低迷、貧困と格差、そしてコロナ禍やウクライナでの戦争などによる物流の停止・食料価格の高騰など。

● 「飢餓をゼロに」に関連する目標は？

飢餓は単なる栄養不足ではなく、紛争、異常気象、貧困と格差などが背景にある複合的な問題であることを確認。そのうえで、右側の「『飢餓をゼロに』に関連する目標は？」のワークを行う。SDGsでは目標2で明示的に「飢餓をゼロに」を掲げているが、それ以外の目標も飢餓に関連している。例えば、目標1「貧困をなくそう」、目標13「気候変動に具体的な対策を」、目標16「平和と公正をすべての人に」はインフォ

グラフィックスから直接的に導き出される。しかし、この他の目標も間接的に飢餓や食と関わっているため、ワークではどの目標にマルをつけても正解となる。各目標と食の関係は、下記ページで解説している（チラシ右下の QR コードと同様）。

参照：<https://worldfoodday-japan.net/sdgs/>

- **+α 自分たちにできることを考えてみる**

世界の今を知ったら、ぜひこれから自分たちにできることを考えてみてほしい。

参照：<https://worldfoodday-japan.net/join/interviews/>（行動している人のインタビュー集）